

令和6年能登半島地震 被災地の図書館応援プロジェクトの活動報告

1. 背景

令和6年1月の能登半島地震で、生活基盤の被害が広範囲に及び、今も情報や文化に触れる機会が制限されています。日本図書館協会の現地調査でも、応急仮設住宅近くの図書館が住民の拠りどころ、新聞・雑誌を通じた情報収集の場、通いと安らぎの場などになっていることが確認されています。

行政からも図書館に対して孤立防止やコミュニティ再生などの役割が期待されています。

一方で、東日本大震災を経験した私達は、被災地のことを忘れない、興味関心を持ち続けること、寄り添いや共感、復旧・復興への大きな励みになることを知っています。

こうしたことを踏まえて、令和7年度において以下の活動を実施しました。

2. 取組み内容等

(1)被災地の特設展示:令和7年12月14日(日)～令和8年3月15日(日)

・写真・映像コーナー(被災地の図書館を知る)

名取市図書館が被災地や日本図書館協会から写真や映像の提供を受けて編集し展示。

・石川県の関連図書コーナー(100冊以上)

石川県の魅力・郷土や歴史が書かれた本、石川県にゆかりのある作家や題材にした小説などを展示。

→泉鏡花・徳田秋聲・唯川恵(金沢市生まれ)、杉森久英・戸部新十郎(七尾市生まれ)

・石川県を舞台にした映画会:1月11日(日)「種をまく旅人 ～華蓮(はす)のかがやき～」

(2)名取市図書館友の会・などによる、募金活動 令和8年3月15日(日)まで実施

・活動状況について(名取市図書館友の会・など)の申出を記載)

などとは、令和6年度に「のと募金」として募金活動を行い、集まったお金で輪島市立図書館に大型絵本を寄贈しました。

令和7年度においては、被災地の図書館で新聞や雑誌の提供が十分ではないことを知りました。そして、新聞や雑誌は、世の中の最新の情報を得るための大切なツールであり、被災した人々の日常を取り戻すためにも、心の拠りどころとなる新聞・雑誌を贈ることを計画し、図書館と協議し、館内に募金箱を設置しました。更に、東日本大震災の支援をきっかけに「友好図書館」となっている石狩市民図書館(北海道)が本趣旨に賛同し、特設展示やイベントが実施されました。

※寄贈先:珠洲市、輪島市、志賀町の各図書館

日本図書館協会「図書館災害対策委員会」の情報によると、上記3自治体の被害が大きく、図書館も被災し、周辺には応急仮設住宅があり被災者の利用も多いことから寄贈先の候補として選定。

・募金額について

目標 204千円 ⇒ 募金総額 360,480円 (内訳:名取市・108,443円、石狩市・251,965円)

・今後について

被災地の新聞販売店・書店を通じて、1年間、新聞や雑誌が図書館に納品されます。

新聞・雑誌【全体】:26紙(誌)(新聞1紙、雑誌25誌)

1市町あたり:約12万円(珠洲市、輪島市、志賀町) ※送金手数料を含む。